



沖縄で繁殖し、オーストラリアとの間を渡りするベニアジサシ（絶滅危惧種）が、ノラネコに捕食されました

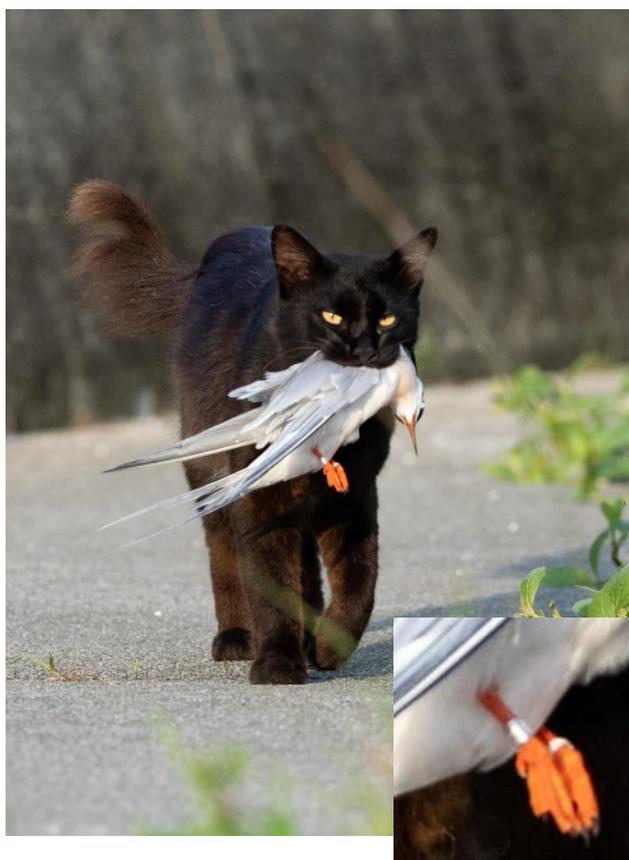
オーストラリアから渡来して沖縄周辺で繁殖する海鳥のベニアジサシ（環境省レッドリストの絶滅危惧Ⅱ類）が、ノラネコによって捕食されている様子が、撮影されました。

・6月22日沖縄県うるま市勝連半島の漁港で、ノラネコが防波堤にとまって休むベニアジサシを捕獲（少なくとも2羽）し、口にくわえて運ぶところが観察されました。

・これまでもノラネコによってヤンバルクイナが捕食されることはわかっていましたが、ベニアジサシでは初めてです。

・ベニアジサシの繁殖数は近年減少傾向にあり、影響が心配されます。

・この個体には鳥類標識調査(注)の金属足環が付いていたため回収して調べたところ、約6,000km南のオーストラリア・クイーンズランド州・スウェイン環礁で、2002年1月12日に標識されたもので、21歳以上であることも判明しました。



足環が付いていた



1. ベニアジサシをくわえるネコ  
(写真提供：上原勝さん)

2. 足環からわかったベニアジサシの移動  
(直線距離約6,000km)



3. 防波堤にとまるベニアジサシを狙うネコ



4. 防波堤の上のベニアジサシに飛びついたネコ  
(動画もあり)



5. 捕まえたベニアジサシをくわえて運ぶネコ



6. 防波堤で休息するベニアジサシの群れ  
(写真はいずれも上原勝さん提供)

オーストラリアでこの個体に足環を付けた研究者（ポール・オニールさん）のコメント：

私たちは、2002年1月12日にスウェイン礁（グレートバリアリーフ海洋公園）で足環を付けました。オーストラリアと沖縄との間の長距離往復飛行に何度も成功したのに、ネコに捕食されるという非常に悲しい結末。たくさんの子孫を残してくれていたらいいですね！ベニアジサシはオーストラリアでは主にネコのいない遠隔島にしか生息していないため、こちらにいる間はネコから安全であるようです。ただしオーストラリアの他の鳥類や哺乳類の種について、その多くは主にネコの捕食によって急速に絶滅に向かっていきます。

ベニアジサシとは：

ヨーロッパやアフリカ、北アメリカなどに生息する海鳥。日本では主に沖縄島周辺で繁殖し、オーストラリア東部で越冬することが鳥類標識調査(注)で判明している。沖縄周辺の個体数は、2021年の環境省調査では約1,500羽であったが、調査年による増減が見られる。同年の巣数は約500巣と2009年以降減少を続けていて、2009年に比べると68.7%減少した（生物多様性センター2021、モニタリングサイト1000 島嶼海鳥調査報告書）。

ネコの捕食による鳥類への影響：

ノネコやノラネコが野生鳥類を捕食することによる影響は、世界中で懸念されている。日本では伊豆諸島御蔵島のオオミズナギドリ（海鳥、準絶滅危惧種）の繁殖地で、1970年代後半には175万～350万羽いたものが、近年10万羽程度に激減したことの要因がネコであると考えられている。ネコ1匹あたり平均で年間に313羽のオオミズナギドリを捕食するとの推定がある（Azumi他2020）。

<https://link.springer.com/article/10.1007/s13364-020-00544-5>

（注）鳥類標識調査とは：

鳥類を捕獲し、個体識別用の足環を装着して放鳥する生態調査。鳥類の国内外の渡りや寿命などの生態を明らかにする目的で実施されている。近年は、鳥類生息状況のモニタリングのためにも活用されている。日本では環境省の委託事業として、山階鳥類研究所が、多くのボランティアの協力とともに実施している。同研究所には1961年以来足環を装着して放鳥した約600万羽のデータが蓄積されている。

この件に関する問い合わせ先：

写真のデジタルデータ、またノラネコが捕獲しようとする際の動画もありますので、ご希望の方はお問い合わせください。

公益財団法人 山階鳥類研究所副所長 尾崎清明

eメール：ozaki@yamashina.or.jp

Tel：04-7182-1101

研究員 富田直樹

eメール：tomita@yamashina.or.jp